



ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室

第44号

2024.3.20 発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場

〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <https://hachisoku.org> hachisoku@gmail.com ☎ 042-686-0820

ゆうちょ銀行振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室

他行からは ゆうちょ銀行:018-0224460 八王子市民放射能測定室



1月13日お茶会 山田真先生講演会

「森永ヒ素ミルクから福島まで」

小児科医 山田 真

最初に自己紹介を少々。ぼくは一昨年4月まで、このビルの一階で診療を続けてきた町医者です。この診療所を始めてから50年になりますが、この50年は本当にいろいろなことがありました。そしてぼくはいろいろなことに関わってきました。その経験の中でぼくが見てきたこと、みなさんに伝えたいことを今日はお話ししようと思います。ぼくは1941年に生まれ、1961年に東京大学へ入学しました。太平洋戦争が始まった年に産まれて、安保闘争があった翌年に大学に入ったわけです。ここから既に波乱づくみですね。

そして1967年に東大医学部を卒業しましたが、この年ぼくたちはインターン制度に反対して60日間ストライキをしました。これが翌年から始まる東大闘争につながるのですが、この時代に出会ったことがぼくの生き方を決めたとおっしゃいます。東大闘争の終幕だった安田講堂の攻防戦の時は、ぼくは医者になっていて安田講堂にはいませんでしたが、八王子市内にあるゼロ中野団地医療所の所長をしているT君は安田講堂で逮捕されています。そういう波乱の時代を経て小児科医になったぼくは、小児科学会を改革しようと学会闘争を始めましたが、そこで森永ヒ素ミルク中毒の被害者と出会いました。森永ヒ素中毒事件は1955年に起こりました。

森永乳業が製造した赤ちゃん用の粉ミルクの中にヒ素が混入し、それを全国で二万人くらいの赤ちゃんが飲んだというとてもない事件です。ヒ素は殺人のために使われることもある毒物ですから120人もの赤ちゃんが亡くなりました。それ以外の赤ちゃんは死をまぬがれたのですが、多くの赤ちゃんに後遺症が残りました。しかし国は翌1956年に被害児全員の検診を行い「後遺症ゼロ、全員治っている」と結論を出しました。信じられない結論ですが、この後、被害児の親たちが「後遺症は沢山ある」と訴えて運動しても世間の理解を得られませんでした。14年後に大阪の養護教諭が教え子の中にヒ素ミルク被害児がいて重い後遺症が残っていることに気がつきました。そして大阪大学衛生学教授などと共に被害児たちの検診をし後遺症があることを明らかにしたのです。そこから被害者たちの闘いが再燃しました。そして被害児の一人が小児科学会でこれまでの彼らの苦しみを訴えたのです。それに応える形で全国で50人くらいの若手小児科医が彼らの応援をすることになりました。東京ではぼくともう一人の小児科医が被害者の会を立ち上げ、ぼくはその後昨年まで支援を続けました。

1960年代の終わりころから70年代にかけて公害被害者、薬害被害者、障害者などが全国で声を挙げました。60年代の大学闘争についてはいろいろな評価があると思いますが、「弱者が強者に対して物を言っている、怒りをぶつけていい」という例を示し、世間に広げたということでは意義があったと思っています。1969年には水俣病の患者さんたちが東京へ出て来てチッ素本社に座りこみました。患者さんたちは座りこむと共にハンストを始めました。ぼくたちは大学卒業後、青年医師連合という組織を作って

いましたが、東大青年医師連合に対して水俣病の支援者から「患者さんたちの健康状態を見にきてほしい」と要請がありました。

ぼくたちは何人かでチームを組んで交代で診療をしました。ぼく以外の級友は患者の診療を終えると帰って行きましたが、ぼくはとても帰ることができませんでした。診療が終わると社長を相手にした交渉が始まるのですが、この交渉は患者さんたちが命をかけた交渉で、そのものすごい迫力にはぼくは動けなくなってしまったのです。毎日続けられる交渉の中で患者さんたちはどんどん強くなっていきます。大勢の患者さんの一人一人の魂の叫びがぶつけられるのです。「闘い」というものはこういうものだと思われました。そしてそれ以来、今まで水俣病の闘いにも関わってきました。(水俣病については今も裁判闘争が続けられていますが、この八王子中央診療所の事務長を長年務めてくれた荒谷さんがこれらの裁判を支えています。)

その他、三里塚での空港開港反対闘争の応援をしたり、山谷で日雇い労働者の医療をしたりと様々なことに関わってきました。

裁判では数十の裁判(多くは医療、教育に関するもの)に主に原告側証人として関わってきましたが、和解に至ったものがいくつかあるものの、勝ったと云えるものはほとんどありません。地裁の判決で勝利しても、国、地方自治体、大企業などは必ず控訴するので最高裁判所まで行ってしまいます。日本の最高裁は正義の味方ではなく国や大企業の味方なので、市民が勝つことはほとんど(いや、全く)ありません。かつて法学者の奥平康弘さんが「日本の最高裁の判事には顔がない」と批判していましたが、最近は最高裁の批判をする法学者も見当たりません。そもそも日本の裁判というものが日本独特のもので、「黒白の結着をさせずけんか両成敗を目ざす」ものであることをぼくは川島武宜さんの本から学びました。そしてこの国の裁判をなんとか変えていかねばとずうっと思い続けています。今日、川島さんの本を持ってきていますのでぜひ皆さんも読んで下さい。「日本人の法意識」という本で1967年に岩波新書として出され、今も版を重ねています。この本をもとにして議論をし、最高裁をはじめとする日本の司法のゆがんだ姿を変えていくことがこれからの課題になってくれるといいと思います。

2011年以來は福島に通い、子どもたちのための健康相談会などを行ってきました。しかし原発をなくすことはできず、健康被害は隠ぺいされたままで、自分の非力を感じています。わたしたちがしなければならぬことはまだ山ほどあります。少しでも勝利をかちとるために過去から学ぶべきだと思います。今日お話ししたことがこれからの闘いのためにいくらかでも役立つことがあれば幸いです。

山田真先生のプロフィール



小児科医。1941年岐阜県美濃市生まれ。東大医学部卒。妻の梅村浄と夫婦別姓の共同生活で家事も育児も分担。障がいのある子供の父親として、小児科医として、世間の優生思想、能力主義に積極的に反対の意見表明をし続けている。元八王子中央診療所所長。「障害児を普通学校へ・全国連絡会」世話人を務める。

山田先生のたくさんの著作の中で、特に今回の講演の内容と重なるのは『水俣から福島へ』(岩波書店)です。その他『はじめてであらう小児科の本』(福音館書店)、『びょうきのほん』(福音館書店)など著書多数。推薦された本は『隠されたトモダチ作戦』ミナト/ヨコスカ/サンディエゴ(エイミ・ツジモト著 えにし書房)、『知ってるつもりー無知の科学』(スティーブン・スローマンほか著、早川書房)です。

ハカルワカル広場が測定活動ができるのも事務所を貸してくださる山田先生のお陰です。あまりに近くにいたため、先生のお話を聞く機会もないままに12年が過ぎてしまいました。今回、常に弱者の立場に立ち、寄り添い続けた先生のこれまでのご経験を聞く機会を得、本当に貴重な機会となりました。(西田)

3月3日(日) ハカルワカル映画会 「サイレント・フォールアウト」 速報

3月3日、第28回ハカルワカル映画会は、「サイレント・フォールアウト」(伊東英朗監督)を上映しました。この映画は、アメリカが核開発の過程で自国内で大気圏内核実験を 101 回も行い、自国民を被ばくさせ、またアメリカ全土を核汚染させたことを伝えています。子どもの被曝を心配した母親たちが乳歯を集めストロンチウム 90 を測定する草の根運動はケネディ大統領を動かし、大気圏内核実験を止めさせました。自らが被ばくしている事実を多くのアメリカ人が知りません。その事実を知らせよとこの映画は制作されました。映画会の参加者は 187 名と大盛況でした！参加者からは「核の脅威を再確認した」、「アメリカの被曝は知らなかった。驚愕した」などの感想が寄せられました。ご参加いただいたすべての皆様、ありがとうございました！詳しくは次号にて!! 映画会の収益金及び会場の皆様からの寄付金(71,000 円)総額 206,000 円は支援金として伊東英朗監督に送金しました。(ハカルワカル広場)



「サイレント・フォールアウト」映画会



映画会後の討論会

3月8日(金) 金八デモ「311を忘れない」は、原発廃炉を訴えました！



13回目の 311 が巡ってきた。忘れようたって忘れられないあの日。福島原発事故が起きたあの 311。原発を止めたいという一心で集まってくる人たちと金八デモを始めて今回で 457 回目だ。元旦の能登半島地震は原発事故があれば逃げ場はないことを教えてくれた。地震国に原発は危険！と声をあげ続けたい。(金八デモ実行委員会)

2023年11月11日お茶会

「どうして?の運動～新宿御苑への放射能汚染土持ち込みに反対する」の講師による寄稿

新宿に原発を!?

新宿御苑への放射能汚染土持ち込みに反対する会世話人
文筆家 平井 玄

二つの御苑

現在この国に「御苑」と名のつく場所は二つある。

ひとつは京都上京区の旧大内裏跡にある京都御苑。その北西の一角に御所(内裏と呼ばれる日王の住処)を含む静謐な庭園である。平安の当初はもうすこし西にあったらしく、その後も焼失し荒廃しては再建を繰り返し、現存する建物はいずれも幕末明治に造られたレプリカである。『源氏物語』はじめ古都の趣を感じられる名所旧跡の大半が「創られた伝統」。リアルなのは幕末内ゲバ戦争が遺した高瀬川に沿った流血の痕跡だ。それさえ「龍馬伝説」など虚構でしかない。じつは南へ行くほど在日朝鮮人や「部落」の町である。まあハードな歴史の実相を知りつつ「人工の美」を愉しむのも悪くはないのだが。

もうひとつの「御苑」が新宿駅東口にある。信州高遠藩の内藤家下屋敷跡に開園されたのは1906年つまり明治40年である。維新後しばらくは農事試験場から王家の御料地だった。御苑といってもこのころ入園できるのは王侯貴族だけ。つまり純粋に王家の庭だったのは敗戦まで39年間にすぎない。大名屋敷としては300年以上、戦後の国民公園になってからすでに80年近い。2倍の時間が過ぎている。特権的な「皇の苑」は歴史上の小さなエピソードなのである。

だから「新宿に放射能汚染土を」??

かつて広瀬隆は「東京に原発を」という反語を放ったが、じつは東京も広い。千代田区千代田1-1の旧江戸城址は皇の御住い処であり天朝の本丸、いわば虚ろなネーションのセンターである。だからこそ皇を否定する人びとは心の中で「皇居に原発を!」とスローガンをさらにエスカレートさせた。あくまで内心で。せいぜいデモの後、飲み屋の交流会で盛り上がるくらいである。



原子力都市・新宿

しかし。

2022 年の暮れに浮上した新宿御苑へ汚染土持ち込みの「実証事業」は、事実として「東京に原発を」ということではないのか。かつて矢部史郎は『原子力都市』という本を書いた。この主張がいまも斬新なのは「原発」とは発電所やエネルギーの問題だけではない。都市空間ぜんたいを覆って管理の下に置くこと——と言いきったことだ。「放射能みんなで浴びれば怖くない」と所沢で汚染土持ち込みに反対する方が書いていたが、この言葉を誰もが心に抱きつつ決して口にしない。そういう空気で街を満たす。「原子力都市」という言い方はストレートにその真ん中を突き刺した。

それでも千代田区千代田 1-1 ではなく新宿区内藤町 1-1 である。ここに「皇のいる原子力都市」からの抜け穴が通じている。新宿という大繁華街の起源はご存知のように、お江戸日本橋から出た甲州街道を西へ行き四谷大木土門の先にできた最初の宿場、内藤新宿である。朱引きの外。街道から北へ下がる低地には飯盛り女のいる岡場所が出現した。御苑に近い二丁目は大正期には遊廓となり戦後は赤線、1980 年代からはゲイタウンになる。戦後高度成長期には膨張し、アングラ文化が栄えて騒擾が絶えない。さらに東京都庁が移っても、この怪しさは消えなかった。最近の歌舞伎町をめぐる路上買売春事件もダークサイドの深淵を思わせるのである。

カオスの運動

千代田の杜ではなく内藤の杜へ。

原子力発電所は維新の敗者や経済成長から外された土地をターゲットにして造られる。信州高遠藩は幕府の西へ向けた警護から戊辰戦争で討幕軍に回ったが、気性の荒い淫猥な土地柄はどうすることもできない。三菱の丸の内、三井の日本橋、西武が衰えて東急が征する渋谷、半官営の虎の門とは違う。とはいえ都庁タワーが伸びる西口。そこは中央線文化の入口である。芸能覇権が揺らぐ吉本興業本社も明治通りにある。歌舞伎町の北から大久保、高田馬場、そして池袋は韓国台湾中国を越えて、モンゴルや東南アジア、イスラム圏まで広がる大陸アジアの突端になった。

このカオスに放射能汚染土を強引に運び込む。環境省を使い走りとする原子力勢力は諦めていない。もはや実証という名目は吹き飛ばかもしれない。IAEA の後押しで今年か来年には必ず、汚染水のやり方で汚染土の全土への拡散を始めようとしている。新宿御苑の周りにはタワーマンションが確実に増えている。タワー民は逆らわない。地上の民や路上の民はカオスになれるのか？

平井玄さん プロフィール



文筆家 1952 年新宿二丁目生まれ。都立新宿高校を経て早稲田大学文学部抹籍。家族自営業後校正フリーターに。早稲田大学や東京藝術大学、立教大学の非常勤講師を務めた。映画『山谷 やられたらやりかえせ』の制作上映に関わり、非正規労働者運動にも参加する。著作：『ミッキーマウスのプロレタリア宣言』（太田出版）『千のムジカ』（青土社）『暴力と音』（人文書院）『ぐにやり東京』（現代書館）など。最新刊は『鉛の魂』（現代書館）。新宿御苑への放射能汚染土持ち込みに反対する会世話人



2月3日お茶会

「地震と原発

——能登半島地震に被災した志賀原発に学ぶ」

維持会員 渡辺 敦雄

1. はじめに

2024年1月1日最大震度7.6の能登半島地震が発生。13年間停止中の志賀原発1～2号機が被災し、地下2階床で最大加速度399.3gal、外部電源が1系統喪失した。地震に遭遇した能登半島と志賀原発から私たちの学ぶべき教訓を記す。

2. 原発の安全性とは

原発の安全性とは「市民が一人も放射能被ばくをしない」ことである。国は市民に対して「原発の安全を保証しない」つまり「原発事故が起きたら必ず市民は被ばくします」と再三述べている。

原発には事故時の被ばくを避けるため、深層防護という以下の①～⑤のシステム設計を実施している。①機器単体の故障予防、②機器機能に多重性を設ける、③ ①及び②が破綻したら、非常用緊急炉心冷却機能を持つ、④ ③も機能不全なら、原発敷地外に放射能を放出する、⑤ ④が実施されたら、被ばくする可能性のある住民全員を避難させる。

しかし、⑤の市民の避難は自治体に任せて、国は全く関与しない。すなわち国は市民の被ばくを避ける義務も能力もない。このことがつまり、国が原発の安全を保証しない理由である。

3. 能登半島地震による志賀原発の被災状況

志賀原発は基準地震動1000galで設計しているが、たったの400galで外部電源が故障した。燃料プールの水も飛び散ったという。短時間であったが基準地震動を上回った。外部電源喪失事故で炉心溶融に至らなかったのは偶然に過ぎない。13年間停止中であつたことも幸いした。地震後敷地内には道路亀裂なども多数あり、近傍の4mの陸地隆起の事実などから直ちに永久停止すべき原発である。そもそも、1号機の真下に活断層があることも専門家から指摘されている。即、永久停止にしなければ悔いを残す危険な原発である。

4. 避難が不可能なこと

家屋の倒壊、道路の崩壊や土石流、土地隆起による地盤の変移などの能登半島地震の教訓は、同時に志賀原発が爆発事故を起こしたら、それは次頁の表に示される避難計画が絵に描いた餅でありヨウ素剤も飲めないということである。大規模地震対策特別措置法で、現在予知不可能である地震災害予知を前提とした避難計画は無意味ということである。

5. ドイツの脱原発を学べ

ドイツは福島第一原発事故直後に倫理委員会を発足し、2011年5月に全原発の永久停止を決定。昨年3月に全原発を永久停止した。理由は世界最先端技術水準の日本で原発事故が起こったから、ドイツでも必ず起こる。永久停止して後世に恐怖と不安を残さない、という選択をした。技術的検討は不要で、事故を必ず起こす原発を子どもや孫に残さないという倫理観でイタリアとともに永久停止を達成した。

6. 外国では災害時国が市民の保護と安全を保証する

諸外国では、アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁、イタリア市民保護局、ドイツ BBK、イギリス CCS、フランス DSC など、原発事故を含む災害や事故の国家的対策と市民の保護を実施する政府機関が存在する。いずれも「市民保護」という言葉が官庁名に入っていることが重要である。阪神淡路、熊本、中越沖、東北地方太平洋沖と、何度も震災対策の機会があったにもかかわらず全く市民を保護する政府機関を創設しないことが、能登半島地震で保護が行き届かず多くの市民への不幸を増幅した。

自衛隊は軍隊だから、災害救助に必須の、衣・食・住・医すべての機能を有している。ヘリコプターや重機なども多量に有している。災害時の素早い人命救助に最も適している。よって、早急に自衛隊を災害救助隊に特化改編し、米国やイタリアなどの市民保護官庁を創ることが求められる。このことは憲法九条で明記されている非武装中立の日本を目指すことにもなる。

7. おわりに

今回の地震に関しての最大の教訓は、原発の安全性は国が保証しないから、即 54 基の原発の永久停止をしなければならないこと、自衛隊を改編して被災市民を保護できる国家機関を作らねばならないことを知ったことである。

現在の指針・避難計画	震災時の避難計画の内容との乖離
5km 圏内(PAZ)では、原子力施設の「全面緊急事態」で避難開始。安定ヨウ素剤を服用	家屋倒壊、道路の寸断、地盤隆起で避難困難 ヨウ素剤確認不可
30km 圏内(UPZ)では一定の線量になるまで屋内退避	家屋倒壊・津波で、①屋内退避で指示待ち不可 ②農業用ハウス、車中泊、倉庫による被ばく防護不可
30km 圏内(UPZ)では一定の線量で避難指示	モニタリングポストの不作動。通信断絶、避難指示不達
避難は、国道、県道などの主要な幹線道路を使って、決められた避難先に避難	道路の寸断、地盤隆起で、避難は困難。避難先も被災
避難退避時検査(スクリーニング)の実施と安定ヨウ素剤は拠点備蓄、避難の途中で配布	① 渋滞および混乱、②自治体職員的能力超で自治体職員にヨウ素剤を途中で配布余力なし



渡辺敦雄さん プロフィール

1947 年上野原市生まれ。1971 年東京大学工学部卒、株式会社東芝入社。原子力事業部配属(福島第一原子力発電所3, 5号機、女川原子力発電所 1 号機、浜岡原子力発電所1, 2, 3号機の基本設計担当)。1998 年環境技術部長。2000 年神戸大学客員教授。2009 年沼津高専 物質工学科教授(2012 年退職)。
(専門) 原子力工学、危機管理学、環境工学
(学位) 博士(工学)技術士(衛生工学)

ホームページ「特集 地震と原発」について

<https://hachisoku.org/blog/?p=12037>

今年の元旦の能登半島の大地震は改めて地震国に原発があることの危険性を私たちに突きつけました。そこでハカルワカル広場では急遽2月3日のお茶会で「地震と原発」を取り上げることにし、講演を渡辺敦雄さん(元原子炉技術者)にお願いしました。

ホームページ特集の最初の記事は、渡辺さんの講演の要旨です。講演要旨に続き、日本の地震地図など資料を掲載しています。有用な資料をこのホームページに掲載していきます。ぜひ右の QR コードから「特集 地震と原発」にアクセスして下さい。

QR コード

「特集 地震と原発」



2023年12月9日お茶会「アメリカの核意識」の学習会

宮本ゆき著 『なぜ原爆が悪ではないのか -アメリカの核意識』 に学ぶ

ボランティア 石井 暁子

12月のお茶会では、宮本ゆき著『なぜ原爆が悪ではないのか-アメリカの核意識』（岩波書店）を参考資料として、日米両国の核に対する意識の違いについて考えました。はじめに本の大きな内容を見て、次に3名のボランティア（鈴木、相澤、石井）がそれぞれテーマを決めて発表しました。詳しくは宮本ゆきさんの著書をお読みください。

【本の概要】

1. 本の目的

自身も被ばく二世であり、広島で平和教育を受けて育った著者は、「アメリカで原爆が正当化されている」ことに違和感を覚え、アメリカの大学院で倫理学を専攻し、何十年経っても核廃絶の訴えが広まらない理由を探ろうとした。その過程で浮かび上がってきたのは、日本とアメリカで語られる「核」さらには「平和」というものへの意識の違いだった。核の被害の実感があり、非人道的であるという認識がある日本に対し、アメリカでは核についてどのような意識が主流にあり、それはどのような「語り」（筋書き、語り口）で人々の共感を得、核保有国としての体制維持に寄与してきたのか。その基盤を文化や歴史から読み解くことで、お互いの齟齬を少しでも解消しようというのがこの本の目的である。

2. 日本とアメリカ「核意識」の違い

日本では、核兵器は一般的には無条件に「悪」とされる。これは広島、長崎への原爆投下やビキニ事件など、被ばく者が被害者として注目される機会が何度もあり、その存在が広く認識されていると同時に、その被害や苦しみの実態が知られており、核兵器の非人道性が共有されているからだと思われる。一方、アメリカでは、「核は中立・無垢なもので、破壊か平和かの意味づけをするのは人間だ」と考えられており、このため、敵が持つ核兵器は「悪」だが自国の核兵器は国防として「肯定」という二重基準が成り立つ。また、核は「制御可能」で「人類のために必要」という大前提があり、被ばく者は他者（自国民ではない）、もしくは国防のためのやむを得ない犠牲として、核論説からは排除されている。

3. アメリカ国内の被ばく者と被害の隠蔽

ところが実際には、アメリカは国内に多くの被ばく者を抱える「被ばく大国」でもある。なぜなら、核開発を続け、核実験をし、実際に戦闘でも核を使用してきたからだ。例えばウラン鉱山労働者、核開発従事者、兵士、核実験従事者、核施設周辺住民のほか放射能人体実験（グリーン・ラン実験、サンシャイン計画他）の被害者もいる。

このように多くの被ばく者がいるにも関わらず、その存在が広く認識されず、核兵器が肯定され続けている理由として、政治による意図的で構造的な「被ばく隠し」がある。日本では、アメリカが原爆投下後すぐに、残留放射線や人体への影響を調査したにも関わらず、その結果を隠蔽したこと、また日本の科学者による原爆被害の調査、研究が禁じられたことが知られているが、これはアメリカ国内の核開発への世論に配慮し、倫理的な批判を受けることを避けるためだった。その後も冷戦期を通じて核開発を優先するため、核のイメージをよくし、放射能被害というネガティブな面を隠蔽するための様々なプロパガンダやシステムが作られた。

【原爆と正義をつなぐもの一軍隊】(担当:鈴木)

第二次世界大戦後、アメリカは冷戦下での自衛のために核は必要として核開発を続けた。アメリカでいう「平和」とは、軍事力で守られていることであり、軍は平和を守る正義とみなされるので、軍が国防のために核兵器をもつことが肯定されている。

現在「選択的義務兵役制度」(登録は義務だが入営はしない)を取っているアメリカでは、軍の存在が社会や生活の隅々にまで浸透している。例えば、アメリカの大学の学費は日本の数倍以上と高額だが、「GI ビル」と呼ばれる制度(州立大学の学費免除ほかさまざまな特典がある)があり、本人や家族が軍に所属する者などはこれを利用できる。また、「ROTC」(予備役将校訓練隊:4年の従軍と8年の兵役義務がある)という制度もあり、選抜に合格すると学費を払ってもらえる、もしくは大幅な免除が受けられる。この制度を使って大学を卒業し、軍に入る人も多い。こうした学生が、大学の授業を軍の制服姿で受けることが日常的にあり、ほかの学生にとっても軍が身近な存在であるばかりか、感謝すべき(「自分が行っていないのに、行ってくれてありがとう」)存在でさえあるといえる。

また学生ローンに限らず、軍に所属することで軍属の保険に入れたり、資格を取って退役後に就職できたりと、軍は福祉の一端を担っており、軍のおかげで生活できる、という恩義を感じている人が多い。そうした事情を考慮せずに、軍や核兵器の非倫理性を説いても、人々の共感は得にくいといえる。

【日本における核の平和利用】(担当:相澤)

日本では、核兵器は非人道的、悪、との見方が主流と思われるが、原発についてはどうだろうか。そもそもアメリカの「平和」が、日本でいう「平和」(軍事とは相入れない)とは異なるにも関わらず、日本は1950年代にアメリカが提唱した「核の平和利用」というスローガンに易々と乗ってしまった。戦争の悲惨を体験した直後の日本で「平和」が受け入れやすかったこと、また戦後の貧しい状況の中、アメリカの電化製品に囲まれた文化的生活にあこがれた面もあったと思われる。あげく、この地震国に54基もの原発を持つことになってしまった。

原発と核兵器という切ってもきれない関係にあるものを、別物として受け入れてしまったと言えるだろう。1955年原水禁世界会議の宣言「原子戦争を企てている力を打ち砕き、人類の幸福と繁栄のために原子力を用いなければならない」に当時の「語り」が見て取れる。英語にすれば同じ「核=Nuclear」を「核」、「原子力」と呼び分けることもこれに一役買ったのだろう。

【実例に見るアメリカの核意識】(担当:石井)



図2-3 アメリカ海軍提督のフランク・ロウリー、副提督ウィリアム・ブランディと妻がロスロード作戦で出来たキノコ雲を模ったケーキにナイフを入れているところ(1946年11月7日)

『なぜ原爆が悪ではないのか』
p47より転載

軍事(核兵器)とビジネス(原発)で世界の覇権を維持するという戦略をもつアメリカでは、核開発に国民の理解が必要であり、そのためには核実験や核施設周辺で起こる放射能の被害を隠蔽し、核の非人道性を見えないようにする必要があった。そのため、報道、娯楽(映画・アニメ・音楽など)、観光、教育、宗教等、あらゆる場面でプロパガンダが繰り返され、現実とは異なる核のイメージが定着した。

実例を見る。科学的な快挙として核実験を祝う象徴として「キノコ雲」がモチーフに使われ(※左の図参照)、「キノコ雲ケーキ」や「キノコ雲ヘア(髪型)」が生まれたが、これは「破壊」とは無縁な「無垢」で「家庭的」な物との結びつけといえる。またコミック雑誌では、放射能を体に取り込み超人的なパワーをもったスーパーヒーローが描かれるなど、ポピュラーカルチャーの中で核や放射能が無邪気に扱われる場面が多々あり、それらには放射能への恐怖感をなくし、むしろ慣れ親しませる効果があったのではないだろうか。

また、ネバダ核実験場に近いラスベガスは「原子力都市」と呼ばれ、1950年代には核実験のキノコ雲を見物するという信じがたい観光が行われていた。さらにマンハッタン計画の三大拠点であるオークリッジ、ロスアラモス、ハンフォードでは、それぞれに博物館や原子炉見学ツアーなどが行われ、被ばくの被害には触れないまま観光地化され、子どもを含む人々を呼び込んでいる。

こうしたアメリカの核についての意識が、核兵器を容認する「語り」の土台となっており、これに対抗する手段は、遍在する放射能の被害(健康被害、環境汚染)を可視化することにつきる。さらに今、そうした「語り」の延長線上に、ハンフォードをモデルとした福島復興(福島浜通りトライデック等)が行われていることが何を意味するのか、私たちは考えなければならない。

二宮志郎の連載コラム

悲しみの LCA(2)

これはネガティブ思考？

「どれだけ喜べるか」を考えるのではなく、「どれだけ悲しまないか」を考えるというのは、究極のネガティブ思考でしょうか。しかし、厳然と存在する悲しみを目の前にして、「喜び」の部分を表に持つてくることで何か覆いを作り、それでポジティブ思考が成り立っているなら、ポジティブ思考という言葉に胡散臭いものを感じてきます。「復興」に向かってポジティブ思考になれない者が、どこまでも被害の悲惨さを強調して訴えようとしているのでしょうか。直視しなければいけない「悲しみ」から目を背けることでは決してポジティブは生まれないと私は思います。

原発だけの問題か

「私はあまりに原発のことばかり考えすぎていないか」この点を自問していることはよくあります。「受け入れ賛成・反対をめぐって町が割れて、親兄弟・親友、といったところの間までにも醜い争いが起こり人々に深い悲しみの傷跡を残した。」

私が原発のことが気になり始めてそういう面を注意深く見るようになったことありますが、原発関連施設の候補地はいたるところでそれが起こっていることを知りました。

「こんな『悲しみのパラマキ施設』の様なものをなぜ作らなければいけないのか」という疑問が私の心の根っこに染み付いた様に思います。だから「原発」と聞くと私は真っ先にそういうことを考えてしまいます。

よく考えれば、問題は原発に特有なものではありません。火力発電所、水力発電所、メガソーラー発電所、といった発電所だけでなく、軍事基地、飛行場、鉄道路線、巨大ショッピングモール、等々、巨大施設は山のようにあり、自分がその恩恵に預かっているところも多大にあります。

「それら全て、それなりに悲しみの傷跡をもっているのではないか。どういう悲しみは受け入れてもよく、どういうものは受け入れるべきでない、とそんな判断ができるのだろうか。」自問とはそういうことになりますが、明解な答は得られません。それらの「悲しみ」から目を背けないようにしよう、そう心がけるのが精一杯です。

だからこそ LCA か

「自分の個人的な思いを排除してできるだけものごとを客観的に判断したい、LCA が切り札とは言えなくても、参考にできる結果でも出してくれるなら、発電所に関してだけでも『悲しみの LCA』を評価できないものか」そんなことを考えました。

そもそも「悲しみ」は客観的に評価できるような対象にはなり得ないものだし、それを背負わされる当事者にしかわからないことがたくさんあります。それは測ろうとしても測れないものであり、「はからない、わからない」の世界のように思えます。でも「はかろうとしていない、わかろうとしていない」という側面も多分にある気がします。

原子力、火力、水力、太陽光、風力、それぞれの巨大発電所建設地において、どのくらい悲しい思いをしたのかという調査を1万人の回答で調べて、結果を比較することができたらどうなるでしょう？実際にそんな調査をすることができるのは国連や国家の様なレベルの調査機関だけでしょうか、そういう大きな組織が動いてくれれば何らかの調査は可能なはずですが。

それを期待しても始まらないので、ちょっと自分の想像力を働かせていろいろ考えてみるしかありません。

「原子力、火力、水力、太陽光、風力、それぞれの巨大発電所が自宅の近所にできたら、どれくらい悲しい思いをするだろうか？」一度このような質問に向き合ってみたらどうでしょう。正直私自身、「自宅の近所に巨大発電所ができたら？」などということはあまり考えたことがありません。それに「故郷」というような結びつきが住んでいる地元になくて、腰を据えて自分の故郷としての思いが染み付いた地で生活している人たちとはかなり悲しみの度合いが違うように思います。

「私の想像する悲しみはかなり浅い」そういう気がします。それは「一人ひとりの悲しみを同じ重みで考えていいのだろうか？」という疑問につながります。それを次回の課題にします。

注) LCA とは?:ライフ・サイクル・アセスメントの略です。原発の場合、「建設—解体」サイクル、核燃料の「採掘—廃棄処理」サイクルの全期間に渡り、評価を行うことを言います。コスト、エネルギー収支、CO2 排出、環境や健康への影響などを対象とします。

Atomtex AT1320A 測定結果(2023年11月～2024年2月現在)

ゼオライトのCs134 初期値引き算前(Cs134 初期値は 30Bq/kg 程度) 不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
庭の土	2024.1	福島県	いわき市平泉崎	1284	1000	612.0	122.0	59.6	12.5	土壌モニター
土	2023.11.25	東京都	八王子市片倉町	1023	1000	598.0	120.0	30.4	7.0	
公園の土	2024.1.20	東京都	八王子市館町	1196	1000	198.0	40.0	18.1	4.6	土壌モニター
里山の土	2023.12.19	東京都	八王子市中山	800	1000	136.0	27.0	10.0		土壌モニター
土	2024.2.19	東京都	目黒区五本木	1021	1000	124.0	25.0	13.7	3.9	土壌モニター
里山の土	2024.1.8	東京都	八王子市中山	789	1000	109.0	22.0	4.9	以下	土壌モニター
斜面下の土	2023.12.4	東京都	八王子市北野台	911	1000	86.5	17.5	11.2	3.7	土壌モニター
斜面下の土	2023.12.4	東京都	八王子市北野台	881	1000	82.2	16.9	14.2	4.2	土壌モニター
土	2024.2.19	東京都	目黒区五本木	725	1000	78.0	16.4	10.8	4.2	土壌モニター
土(プランター内)	2024.1.31	東京都	八王子市絹ヶ丘	1026	1000	69.0	14.1	3.7	以下	土壌モニター
里山の土	2023.12.11	東京都	八王子市中山	965	1000	64.9	13.4	3.9	以下	土壌モニター
里山の土	2024.1.16	東京都	八王子市中山	1020	1000	61.2	12.8	10.6	3.5	土壌モニター
公園の土	2023.10.30	東京都	八王子市本郷町	1118	1000	60.7	12.8	19.1	4.8	土壌モニター
庭の土	2023.12.8	東京都	日野市多摩平	955	1000	49.9	10.7	4.0	以下	土壌モニター
土	2023.12.1	東京都	八王子市打越町	1003	1000	46.5	9.6	12.5	3.3	
公園の土	2024.2.15	東京都	八王子市公園	880	1000	36.8	8.5	10.7	3.7	土壌モニター
庭の土	2023.11.10	東京都	八王子市北野町	775	1000	34.4	8.5	18.5	5.3	土壌モニター
庭の土	2024.1	神奈川県	相模原市中央区	790	1000	28.4	7.1	11.2	4.1	土壌モニター
里山の畑の土	2024.2.21	東京都	八王子市中山	1097	1000	23.9	6.0	14.2	4.0	土壌モニター
滑り台の下の土	2023.11.2	東京都	八王子市八木町	1442	1000	23.0	5.6	14.3	3.7	土壌モニター
里山の土	2024.1.23	東京都	八王子市中山	1092	1000	20.6	5.3	10.7	3.4	土壌モニター
畑の土	2023.11.30	東京都	八王子市中野上町	980	1000	19.0	5.0	3.8	以下	土壌モニター

測定室からのお願い 測定検体の容量は、0.5 リットルまたは 1 リットルです。多めにお持ちください！

EMF211 測定結果(2023年11月～2024年2月現在)

不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
プランターの土	2024.1	東京都	八王子市市元八王子町	958.6	1000	9.06	0.63	0.9	以下	自主測定
馬ぶどう葉・茎	2023.3.26	福島県	石川郡	166.2	1000	5.43	1.62	2.92	以下	8時間測定
なめこ	2023.11.7	福島県	会津若松市	429	1000	3.99	1.63	1.24	1.9	自主測定
掃除機のゴミ	2024.1.13	東京都	西東京市南町	213	1000	1.96	1.08	1.96	以下	定点測定
米	2023.10.7	福島県	福島市	805.6	1000	1.53	0.45	0.8	以下	4時間測定

「12年目の土壌測定プロジェクト報告書ダイジェスト版」(2012～2023) 12ページ 完成しました！
「ハカルワカル広場だより44号」に同封しました。土壌に放射性セシウムがどれだけ残っているかが一目で分かる内容です。ぜひご覧下さい。フルバージョン24ページをご希望の方はハカルワカルにご一報ください。



あなたの家のまわりは大丈夫？
測って確かめませんか？

<https://hachisoku.org/blog/?p=11398>



次の10年の土壌測定プロジェクト



測定室からのご報告とお知らせ

- * 11月11日(土)お茶会「どうして?の運動～新宿御苑への汚染土持ち込みに反対する～」講師:平井玄さん
講師の平井玄さんは新宿生まれ新宿育ちの作家です。出身校も都立新宿高校で、新宿御苑のまさにお隣！福島原発事故で放射能汚染された土を中間貯蔵施設からわざわざ取り出して、子どもの遊ぶ公園の花壇の下に入れるというこの実証事業に「どうして?」と反対運動の世話人に。とても分かりやすいお話しでした。4、5ページの寄稿「新宿に原発を!？」をお読みください。(参加者:オンライン20名、会場7名)
- * 12月9日(土)お茶会:「アメリカの核意識」の学習会(報告者:石井、鈴木、相澤)
『なぜ原発が悪ではないのか』(宮本ゆき著 岩波書店)に沿って、アメリカの核意識が日本のそれと大きく異なる点を学習した。被ばくの被害を知らされず、いまだに原発を「大きな爆弾」と捉えている実情などを学習。大変わかりやすいと好評でした。(参加者:オンライン14名、会場10名)
- * 1月13日(土)お茶会:「森永ヒ素ミルクから福島まで」(講師:山田真先生)
病気から快復された山田先生による講演。森永ヒ素ミルク事件の被害者に寄り添うことから始まった常に弱者の側に立つ救援活動。原発事故の裁判も含め日本の裁判がなぜ弱者救済にならないのかもお話しくださりあっという間の2時間でした！(参加者:オンライン19名、会場23名)
- * 2月3日(土)お茶会:「地震と原発」講師:渡辺敦雄さん
元旦の能登半島の地震は日本が地震列島であることを改めて突き付けました。そこに志賀原発があったことも。稼働中ではなかったのが幸いでしたがもし稼働していたら?と考えるだけでも恐怖です。「地震と原発」についての渡辺敦雄さんの講演では、全原発の永久停止を訴えられました。(参加者:オンライン22名、会場12名)
- * 3月3日(日):ハカルワカル映画会(第28回)「サイレント・フォールアウト」(伊東英朗監督)を上映。監督がビデオメッセージで、「女性の行動が社会を変える力になる。皆さんも何か一つアクションを!」と呼びかけられたのが心に響きました。自分のできる範囲で何か行動することが大切だと、この映画で私たちに突き付けられていると思いました。詳しくは3ページをご覧ください。(参加者:187名)

【お知らせ】

「小学館児童出版文化賞」を会員で児童文学作家の遠藤みえ子さんが受賞されました。受賞作は「風さわぐ北のまちから」(佼成出版社)です。敗戦後、現在の北朝鮮の鎮南浦から引き上げるときの苦難と、その時北朝鮮の方たちが助けてくれた、人間と人間の交流が描かれています。遠藤さん、おめでとうございます！

次の10年の放射能測定プロジェクトの参加者を募集しています。

詳しくは右のQRコードを読み取ってください。原発事故以来、放射能汚染状態は続いていますので、定期的に放射能測定を続けることが大切です。ご協力をお願いします！



「311 子ども甲状腺がん裁判」原告支援カンパ ご支援をお願いします！

カンパの振込先:三菱UFJ銀行 四谷支店 口座番号:0549130

口座名義:311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク 左のQRコードよりチラシをご覧ください。

今後の予定

- * 4月6日(土)お茶会 …映画会の感想、反省会
- * 5月11日(土)お茶会
…311 子ども甲状腺がん裁判について

2024年度総会にご参加を！

- * とき: 6月1日(土)10時～11時30分
- * ところ:ハカルワカル広場 +オンライン

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室
ハカルワカル広場

〒192-0053 東京都八王子市八幡町 5-11 八中ビル 2F
お電話 問合せ **042-686-0820**

HP: <https://hachisoku.org> メール: hachisoku@gmail.com
【開室】火曜日～土曜日:10時～12時

ボランティア、維持会員募集中!
お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です! ゆうちょ銀行 00100-8-290994 (八王子市民放射能測定室)
他行からの振込は: 018-9224460 (八王子市民放射能測定室)